

第 2 回デジタル学園祭「全国情報教育コンテスト(略称:全情コン)」 審査基準

第 2 回デジタル学園祭「全国情報教育コンテスト」の審査においては、以下に掲げる部門毎の観点について審査を行います。

項目	評価基準
1. 社会的貢献・ 実用性	<p>提案された技術やシステムが現実世界でどれだけ社会的問題を解決し、実用的な価値を提供できるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的な実現可能性はあるか。 ○ 実用化のためのステップが明確に示されているか。 <p>環境への配慮、持続可能性、社会への影響がどれだけ考慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会的、環境的、または経済的にどのような影響を与えるか。 ○ 持続可能性や倫理的な側面への配慮がなされているか。 <p>(例: データのプライバシー保護、環境負荷の低減)</p>
2. デザインと ユーザー体験 (UX/UI)	<p>インターフェースやユーザー体験がどれだけ直感的で使いやすいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 操作が簡便で、目的に対して適切に設計されているか。 ○ 視覚的なデザインや操作性、ユーザーの使いやすさがどれだけ考慮されているか。
3. 情報 I レベルの 知識理解と活用	<p>情報 I で扱われているアルゴリズムやデータ構造などの考え方がアイデアにどれだけ活かされているかを評価します。(科目履修の有無は関係ありません)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アルゴリズムやデータ構造、情報の取り扱いに関する基礎知識を正しく活用しているか。 ○ 実施過程で発生すると考えられる問題に対して、適切な解決策を準備しているか。
4. 技術的革新性	<p>他の技術との差別化、革新的なアプローチがプロジェクトにどれだけ影響を与えたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 提案された技術やアイデアが既存の技術に対して新しい視点や改良を加えているか。 ○ 他の既存技術との差別化が図られているか。 <p>技術的な新規性、または新しい視点を提供できるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高度な技術やアルゴリズム(例: ディープラーニング、センサーフュージョン技術など)を取り入れているか。 ○ 難易度の高い技術的問題に挑戦しているか。
5. 倫理的配慮と 法的遵守	<p>プロジェクトがどれだけ倫理的な問題に配慮しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ユーザーのプライバシーやデータセキュリティに配慮した設計がされているか。 ○ AI や IoT を使用する際の倫理的問題(偏りのないデータの使用など)に対する考慮がなされているか。 ○ 著作権や特許、ライセンスなど法的な遵守がしっかりされているか、適切な倫理的基準を守っているか。

<p>6. 完成度</p>	<p>完成度、システムの統合性や動作の安定性を評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 設計通りにシステムが動作し、実装された機能が予想通りに動作するかどうか。 <ul style="list-style-type: none"> ▪ コードの品質(効率性、可読性、拡張性)。 ▪ コードが適切に動作し、バグやエラーが少ないか。 ▪ 回路設計やハードウェアの構造が合理的かつ実現可能であるか。 ○ 各技術(AI、IoT、ロボット、VR/AR など)が適切に統合され、実際に機能しているか。 <ul style="list-style-type: none"> ▪ 各コンポーネント(ソフトウェア、ハードウェア、AI モデルなど)が適切に統合されているか。 ▪ 外部 API やライブラリの活用方法。
<p>7. プレゼンテーション能力・説明力</p>	<p>プレゼンテーションの分かりやすさ、発表者がどれだけ自信を持って説明できるかを評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 技術的な内容やプロジェクトの目的、実現した成果について、聴衆に対してわかりやすく正確に伝えられるか。 <ul style="list-style-type: none"> ▪ 課題設定の妥当性、それによって解決できる問題の範囲と程度を説明できる。 ▪ 技術の背景や目的を明確にし、どのような課題に対して解決策を提供しているかを効果的に説明できる。 ○ 質疑応答に対する対応力、発表の構成が論理的で理解しやすいこと。(※最終発表のみ) <ul style="list-style-type: none"> ▪ 発表の構成が論理的で、聴衆に対してわかりやすくプレゼンテーションできるか。 ▪ 視覚資料(スライド、デモ映像など)がわかりやすく効果的に使われているか。